

# 恵比寿聖書フォーラム

## 聖書フォーラム信仰告白の学び

2025年-2026年



# 目次

OL	聖書フォーラム信仰告白作成に至る経緯	P2-P7	2025.02.03
OL	聖書フォーラム信仰告白3つのD	P8	
1	聖書について	P9-P15	
2	神の本質について	P16-P26	2025.02.17
3	イエス・キリストについて	P27-P40	2025.03.03
4	聖霊について	P41-P42	
5	デイスベンセーション	P43-P50	
6	天使について	P51-P69	2025.04.07
7	人間について	P70-P75	2025.05.19
8	救いについて	P76-P89	2025.06.16

9	イスラエルについて	P90-P97	2026.07.07
10	教会について	P98-P114	2026.02.04
11	携挙について	P115-P127	2026.02.16
12	患難期について	P128-P133	2026.03.02
13	再臨について	P134-P139	2026.03.03
14	御国について		
15	永遠の状態について		

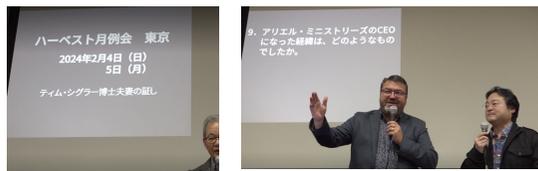
## 【OL】聖書フォーラム信仰告白作成に至る経緯

### (1) アリエルミニストリーズ信仰告白との出会い

2024年2月3日（土）東京、6日（火）大阪  
『イスラエルの現在の戦いと神の永遠の計画』

#### ティム・シグラー博士

米国トリニティ神学校で博士号取得。2000年から約20年間、ムーディ聖書大学教授。2017年から約5年間、シェパード神学校学部長。2024年、フルクテンバウム師の後任として、アリエル・ミニストリーズCEO就任。

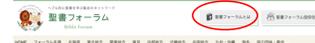


2024年2月4日、5日東京月例会

## 【OL】聖書フォーラム信仰告白作成に至る経緯

### (2) 聖書フォーラムの8つの神学的土台

※HP/BF&BS立ち上げ申請書に記載



- ① 聖書観／字義通りの解釈、神の靈感を受けた執筆者や権威に対するリスペクト。
- ② デイスベンセーション神学
- ③ 終末論／患難期前携挙説、千年王国前再臨説
- ④ 義認・聖化・栄化の理解
- ⑤ 聖書フォーラムは教会形成の初期段階であり、  
長老が建てられた聖書フォーラムは、地域教会である
- ⑥ 女性牧師問題
- ⑦ LGBTQ問題
- ⑧ NAR問題

※参考 第24回聖書フォーラム聖会 聖会Ⅳ 2023年10月9日  
[https://youtu.be/39L7q\\_k\\_mLg](https://youtu.be/39L7q_k_mLg)

## 【OL】聖書フォーラム信仰告白作成に至る経緯



### (3) アリエルミニストリー信仰告白の翻訳版

一宮BF、練馬桜台BF、蒲郡BFの兄弟たちによる、アリエルミニストリー信仰告白翻訳版の作成

→ リーダーメールでの展開依頼

### (4) 聖書フォーラム信仰告白作成に着手

聖書フォーラムの信仰告白作成の必要性を聖書フォーラム委員会で協議

・8つの神学的土台では、不十分

・中川先生にアリエルミニストリーズ信仰告白英語本文を参考に、日本の聖書フォーラムに沿った内容、項目での叩き台を作成していただく

・2024年10月14日（月・祝）第29回聖書フォーラムリアル聖会での、原案発表に向けて審議を重ねた上で発表 <https://youtu.be/HZNQvL-hjH8>

5

## 【OL】聖書フォーラム信仰告白作成に至る経緯

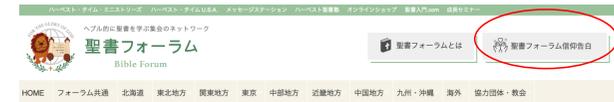


### (5) 聖書フォーラム信仰告白（完成版）の作成

・各フォーラムリーダーよりの質問を受け付ける／11月30日まで  
呉BF、宮城仙台BF、門司港レトロBF、恵比寿BF、大阪ドーム前BF  
熊本BF、練馬桜台BF

→ 委員会で一つひとつ協議の上、回答書を作成しリーダーメールで配布  
神学議論は一旦終了

・聖書フォーラム信仰告白完成版と注解付き作成し、リーダーメールにて配布  
・聖書フォーラムHPに本文のみ掲載



(6) 各聖書フォーラムにて、学び会の実施 ※後ほど発表

6

## 【OL】聖書フォーラム信仰告白作成に至る経緯



### (5) 聖書フォーラム信仰告白（完成版）の作成

・各フォーラムリーダーよりの質問を受け付ける／11月30日まで  
呉BF、宮城仙台BF、門司港レトロBF、恵比寿BF、大阪ドーム前BF  
熊本BF、練馬桜台BF

→ 委員会で一つひとつ協議の上、回答書を作成しリーダーメールで配布  
神学議論は一旦終了

・聖書フォーラム信仰告白完成版と注解付き作成し、リーダーメールにて配布  
・聖書フォーラムHPに本文のみ掲載



(6) 各聖書フォーラムにて、学び会の実施 ※後ほど発表

7

## 【OL】聖書フォーラム信仰告白3つのD



1. DEFINITION  
聖書フォーラム運動の定義

2. DEFENSE  
霊的戦いの武器

3. DEDICATION  
献身すべき目標

8



聖書フォーラム 信仰告白  
私たちは、次のように信じ、告白する。

1. 聖書について

- ①聖書は、靈感を受けて書かれた神のことばである。
- ②聖書の著者たちを守り導いた靈感は、十全（完全無欠）かつ逐語的のものであった。それゆえ、聖書は原典66巻において無誤（誤りがない）である。
- ③聖書は、それが取り上げる全ての事柄において、信仰と実践の唯一の権威である。



【注解】

- 聖書論を論じる時には、十全、逐語、無誤、無謬という言葉がある。
- ・十全とは完全無欠であること、無誤とは誤りが全くないことを意味している。
- ・無誤と無謬の違いがあるが、複雑になりすぎるので割愛した。
- ・無誤とは全く誤りがないということであるのに対し、無謬というと主要な教理について誤りがないということで、無謬は無誤に比べて誤りのなさにおいてレベルが下がる。
- ・逐語的という言葉は、通訳でも同時通訳や逐語通訳などと言われているように一般的な言葉であるので、カッコがきは省略した。
- ・もし説明するなら、「全ての言葉が靈感を受けている」、「靈感は十全かつ逐語的（全ての言葉に当てはまる）」などのようになる。
- ・逐語的とは、「言葉全部が」という意味であって、「原語に忠実」ということとは違う。



1. 聖書について

- ①聖書は、靈感を受けて書かれた神のことばである。

第2ペテロ1:21

21 預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです。

第2テモテ3:16

16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。



第1コリント2:9～13

- 9 しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。
- 10 それを、**神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。**御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。
- 11 人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほかには、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の霊のほかにはだれも知りません。
- 12 しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知っています。
- 13 それについて語るのに、**私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばによって御霊のことを説明するのです。**

## 【1】聖書について



②聖書の著者たちを守り導いた靈感は、十全（完全無欠）かつ逐語的なものであった。それゆえ、聖書は原典66巻において無誤（誤りがない）である。

マタイ5:18

18 まことに、あなたがたに言います。天地が消え去るまで、律法の一点一画も決して消え去ることはありません。すべてが実現します。

黙示録22:18-19

18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者に証する。もし、だれかがこれにつけ加えるなら、神がその者に、この書に書かれている災害を加えられる。

19 また、もし、だれかがこの預言の書のことばから何かを取り除くなら、神は、この書に書かれているいのちの木と聖なる都から、その者の受ける分を取り除かれる。

13

## 【1】聖書について



詩篇12:6

6 主のことばは**混じり気のないことば**。土の炉で**七度試され純化された銀**。

箴言30:5-6

5 神のことばは、**すべて精練**されている。神は、ご自分に身を避ける者の盾。

6 神のことばに付け足しをしてはならない。神があなたを責めて、あなたが偽り者とされないために。

14

## 【1】聖書について



③聖書は、それが取り上げる全ての事柄において、信仰と実践の唯一の権威である。

第2テモテ3:16

16 聖書はすべて神の靈感によるもので、**教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益**です。

コロサイ2:8

8 あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、**注意**しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、**キリストによるものではありません**。

9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちた**性質が形をとって宿っています**。

10 あなたがたは、キリストにあって**満たされているのです**。キリストはすべての**支配と権威のかしら**です。

15

## 【2】神の本質について



### 2.神の本質について

①父、子、聖霊という三位格において永遠に存在する唯一の神がおられる。

②三位格は全て、同じ属性、性質、完全性、および**人格的特性**を有する。

#### 【注解】

➤ここでのポイントは、「人格的」と言っているかどうかである。

➤人格的特性と言うのはパーソナリティという意味であるが、それは神から来ているものであるため、それを適切に表現する言葉が日本語にはない。

➤それゆえ、人間の性質を神に投影して説明している点が引っかかるかもしれない。

16

## 【2】神の本質について



### 【三位一体とは】

#### (1) 三位一体と啓示

- ①三位一体に関する知識は、神からの啓示がなければ、知り得ないもの。
- ②三位一体という用語は、聖書に出てこない。しかし、その概念は啓示されている。

#### (2) 三位一体の定義

- ①「**神は、実体（サブスタンス）において唯一の神でありつつ、父と子と聖霊という三つの位格（ペルソナ）において存在する**」
- ②三位一体は、教会史においては、常にキリスト教正統派の教理であり続けている。しかし、この概念は、人間の理性によって納得することが不可能なため、「異端」と呼ばれる教えが種々誕生することになった。

17

## 【2】神の本質について



### (3) 神の単一性

ヤハウェ（主）は唯一

申命記6:4  
聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。**主は唯一**である。

ヨハネ17:21-23

21 **父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。**

22 **またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。**

23 **わたしは彼らのうちにて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたこと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです**

18

## 【2】神の本質について



### (4) 神の複数性

創世記1:26a

神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。」

ヨハネ14:16

そして**わたしが父**にお願いすると、父は**もう一人の助け主**をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにして下さいます。

マタイ3:16

**イエス**はバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のご自分の上に降って来られるのをご覧になった。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これは**わたしの愛する子**。わたしはこれを喜ぶ。」

19

## 【2】神の本質について



ヤハウェ（主）という御名が、2つの位格に同時に使われている。

創世記18章

1 主は、マムレの櫛の木のところで、アブラハムに現れた。彼は、日の暑いころ、天幕の入り口に座っていた。

2 a 彼が目を上げて見ると、なんと、**三人の人**が彼に向かって立っていた。

22 **その人たちは**、そこからソドムの方へ進んで行った。アブラハムは、まだ**主**の前に立っていた。

創世記19章

24 そのとき、**主**は硫黄と火を、天から、**主**のもとからソドムとゴモラの上に降らせられた。

20

## 【2】神の本質について



### (5) キリストの永続性と神性

#### ヨハネ1章

- 1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
- 2 この方は、初めに神とともにおられた。
- 3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。
- 4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。
- 5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。
- 6 神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。
- 7 この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。
- 8 彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。
- 9 すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。

21

## 【2】神の本質について



- 10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。
- 11 この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。
- 12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。
- 13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。
- 14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

22

## 【2】神の本質について



#### マタイ4章

- 3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」
- 29 すると見よ、彼らが叫んだ。「神の子よ、私たちと何の関係があるのですか。まだその時ではないのに、もう私たちを苦しめに来たのですか。」

サタンと悪霊がキリストの神性を認めている

23

## 【2】神の本質について



### (6) 三位一体の教理の歴史的概観

#### 初代教会から教会教父時代（使徒直後の時代、1～2世紀）まで

- ①「イエスは主（キュリオス）なり」という信仰告白
- ② **キリスト教は二神信仰であるという批判**がユダヤ人や異教徒から出てきた。
- ③ それに対してキリストも神であり、しかも父なる神と一つであるという証明が必要となった。 →キリスト論との関連で、三位一体の教理が発展。

#### 様態論 (Modalism)の出現

- ① 神の単一性を強調し、三神論に流れる可能性を否定した。  
→神の単一性のみを強調し、三位一体を否定するというバランスを欠いた主張。
- ② 唯一の神が、**3つの異なる「様態」で自己啓示を行なったと主張**。  
→それゆえ、3位格が同時に顕現することが否定される。

24

## 【2】神の本質について



### (7) 三位一体論の重要性

- (1) 三位一体を否定すると、聖書が神の啓示の書であることを論証できなくなる。
- (2) 神の真理の伝達に、御子と聖霊がともに関わっている。
- (3) 人類の救いに、三位一体の3位格が関わっており、三位一体を否定すると救済論は誤ったものになる
- (4) 信者の祈りは、三位一体を前提に捧げられるものである。

25

## 【2】神の本質について



### マタイ28

- 18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。
- 19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、
- 20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

### 第2コリント13：13

- 13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

26

## 【3】イエス・キリストについて



### 3. イエス・キリストについて

#### (1) キリストの神性

- ①主イエス・キリストは、完全な神性を有しておられる。
- ②この方は、常に神であられたし、これからも神であり続けられる。
- ③この方は、受肉に際しても、神であることをお止めになったわけではない。

※栄化されたからだ

27

## 【3】イエス・キリストについて



### ピリピ2:6-11

- 6 キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、
- 7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、
- 8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。
- 9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。
- 10 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが膝をかがめ、
- 11 すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。

○メシアの神性、先住性、永続性を示している

28

### 【3】 イエス・キリストについて



#### (2) 初臨

- ①主イエス・キリストは、人としては、**聖霊によって受胎した処女マリアから誕生**された。
- ②この方は、神性と人性を有しておられるが、**この二性は、混じり合うことなく明確に区別される**ものである。
- ③この方に罪は無く、また罪を犯したこともなかった。

29

### 【3】 イエス・キリストについて



#### 受肉

- キリストの二性
  - ・時には神の領域で、時には人性の領域で働き、行動された。
  - ・神としての力を、人間的必要のために用いることはなかった。 ※石をパンに
  - ・人でなければ、死ぬことはできない
  - ・神でなければ、人を救うことはできない
- 公生涯が終わってからも、メシアの受肉状態は続く**

30

### 【3】 イエス・キリストについて



- ④この方は、すべての人の罪を贖うために十字架上で死に、墓に葬られ、三日目に**栄化されたからだ**で復活された。

#### 【注解】

- ④栄化されたからだ
  - ・「栄化されたからだ」と言う言葉をわざわざ入れたのは、「蘇生」とは違うと言うことを確認するためである。
  - ・「からだ」と言う言葉を、漢字で書く場合に「身体」と書くと「人間の体」というニュアンスになるため、「体」と言う漢字を使うが、聖書はひらがなで書いているので、ひらがなを採用する。
  - ・「栄化されたからだ」を、「栄光の体」と言うのはオプションとしてはあり得る。英語的に言うと、Glorified bodyである。

31

### 【3】 イエス・キリストについて



- ・「**栄光の体**」と言うと、Final Product（最終的な状態）を言っていて、「**栄化された**」というと死者から蘇ったという動きがニュアンスとしてある。
  - ・元々罪を持っておられないイエス様のことに関して栄化という言葉を使っても良いか、という質問に対しては、「良い」が答えである。
- なぜなら、人間の体が一度死んで復活した体はGlorified bodyであるところ、人間イエスにかけて言っているからである。

32

### 【3】 イエス・キリストについて



・2012年のフルクテンバウムセミナー「聖書が教える死後の世界」にて、イエス・キリストが復活した後の40日間は、体に釘の跡があるため、栄光のからだに変えられていないという旨が教えられていた。この点、イエス様は閉め切った部屋に入って来られたということは、体自体が既に栄化されたからだ、多次元の体になっていることを示している。

黙示録の1章では、イエス様が栄光の王として現れており、その時には釘の跡がなくなっているというような説明をすることがあるが、黙示録の1章の言葉全体が非常に象徴的な言葉で主の主権を表している表現になっている。そこを読む限り、釘の跡のことは出てこないし、その発想もない。それはなぜかという、栄光に焦点が合っているからである。

33

### 【5】3. イエス・キリストについて



ところが、黙示録の5章6節に行くと、「ほふられたと見える小羊」（新改訳第3版）という言葉が出てくる。1章も5章も共に考慮しなければならない。イエス様は栄化されたからだを持ってご自身を啓示されたが、それと同時に、それはほふられたと見える小羊でもある。

栄光のイエスだけだと、ほふられたと見えるという言葉の意味が着地しない。以上から、聖書は明確に述べていないが、この言葉から見ると、イエス様は人間性を永遠の世界にまで引き受けておられる人として来られたという愛を表現するために、十字架の愛を記念する釘の跡が永遠に続いていると理解することができる。

つまり、イエス様はご自分の愛を示した記念に、永遠の秩序に至るまで、人間の体を自分の一部とし、しかもその体には釘の跡があるというのが、イエス様の栄光のからだである。

34

### 【3】 イエス・キリストについて



⑤この方は、天に昇り、父なる神の**右の座**に着座された。

#### 右の座

○神の右に座することは、神と特別な関係にあり、その権威を共有することを象徴  
※栄光と名誉の象徴、取次ぎ手としての役割

エペソ1:20-21（詩篇110:1、ヘブル1:3、ローマ8:34）

20 この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、

21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。

35

### 【3】 イエス・キリストについて



⑥この方は、十字架の死を通してすべての人に罪の贖いを提供されたが、この贖いは、**信じる者**にのみ適用されるものである。

#### 信じる者のみに適用

ヨハネ5:24

（ヨハネ3:16-18、ローマ3:22-24、ローマ10:9-10、ヘブル9:28など）

24 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。

36

### [3] イエス・キリストについて



#### (3) 現在の奉仕

神であり人である主イエス・キリストは、父なる神の右の座に座し、すべての信者のために大祭司として執りなしをしておられる。

#### 【注解】

- ・「これから信者になる人たち」のために働いているのは聖霊である。
- ・大祭司としての主イエス・キリストの役割は、神と信じている人の間に立って執りなしをすることである。

### [3] イエス・キリストについて



#### (4) 再臨

主イエス・キリスト自身が、教会とイスラエルのために、肉体をもって文字どおり地上に戻って来られる。

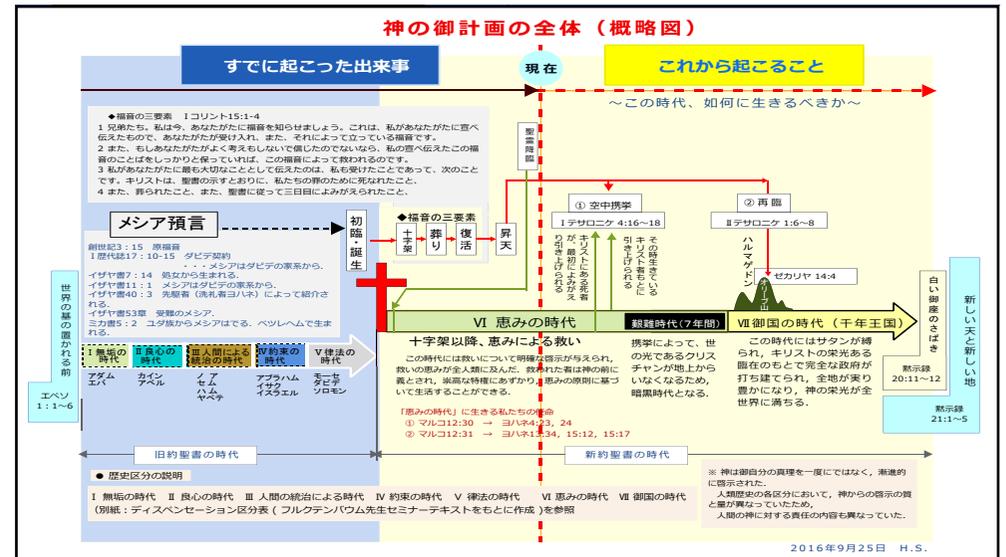
#### 【注解】

- ・「地上再臨」という言葉は、「空中再臨」という言葉との対比で使われる。
- ・私たちは、空中再臨のことを「携挙」と呼んでいるので、再臨と携挙、という言葉遣いで良い。
- ・私たちは教会とイスラエルを明確に区別しているため、ここでイスラエルというと現実のイスラエル（アブラハム・イサク・ヤコブの子孫）である。

### [3] イエス・キリストについて



- ・ここで「栄光のからだ」ではなく「肉体」という言葉を使っているのは、キリストの再臨を比喩的に解釈する人のことを意識しているからである。
- ・肉体があるか、比喩的なのかという対比がポイントになっている。
- ・英語では、再臨のことをBodily Returnと言うが、その場合に、「栄光の」などの修飾語をつけることはない。



#### 【4】 聖霊について



- ①聖霊は、人格と神性を有したお方である。
- ②この方は、誤りなきみことばの究極的な作者であり、解釈者である。
- ③この方は、罪人に罪を示し、新生へと導かれる。
- ④この方は、信じた人に証印を押し、聖霊によるバプテスマによって教会の一員とされる。
- ⑤この方は、信じた人のうちに住み、その人に力を与え、その人を教え導かれる。
- ⑥この方の奉仕の主な目的は、キリストを証しし、キリストに栄光を帰すことである。
- ⑦この方の満ち満ちた力と支配は、信仰によって体験するものである。

41

#### 【4】 聖霊について



##### 【注解】

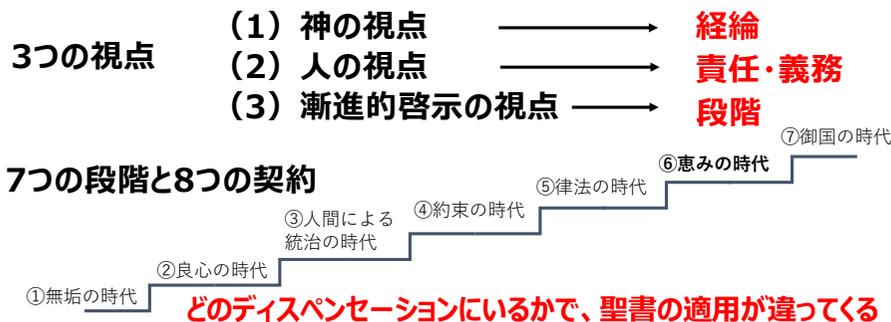
- ④の教会とは、普遍的教会のことである。
- 聖霊はキリストのエージェントであり、バプテスマの主体はキリストである。  
**キリストが、聖霊というエージェントを用いて、聖霊のバプテスマを授ける。**  
よって、この方（聖霊）が聖霊によるバプテスマによって信じた人を教会の一員にされるわけではない。  
なお、「聖霊のバプテスマ」でも「聖霊によるバプテスマ」でもどちらでも同じであるが、「聖霊によるバプテスマ」という表現の方がより実際の厳密な意味を伝えているので、「聖霊によるバプテスマ」を採用している。

42

#### 【5】 ディスペンセーション



**(1) ディスペンセーションとは**  
**神の計画の進展において明確に区分される経綸**  
※秩序を整えおさめること。またその方策



43

#### 【5】 ディスペンセーション



##### 5. ディスペンセーションについて

- ①ディスペンセーションとは、神が地上での自らの目的を管理するために人間に与えた責務であり、その内容は、時代とともに進展する。
- ②各ディスペンセーションは、**救いの方法を提示したものでも、「恵みの契約」の新しい適用を示したものでもない。**それは、人間が漸進的啓示に基づいて神に服従するかどうかを試すためのものである。
- ③各ディスペンセーションの基となっているのは、以下の3点である。**聖書の字義どおりの解釈、イスラエルと教会の一貫した区別、神の栄光が最終ゴール**であるという認識。
- ④すべてのディスペンセーションにおいて、**救いの原則は不変である。救いの土台はキリストの血潮、救いの方法は恵みと信仰、そして、信仰の対象は神である。**
- ⑤ただし、信仰の内容だけは例外である。信仰の内容は、**漸進的啓示**によりディスペンセーションが移行すると、変化する。

44

## 【5】ディスパenseーション



### 【注解】

- 進展という言葉は、進歩し、発展するという意味であり、時代の流れに影響されるというニュアンスはない。
- ②の『「恵みの契約」の新しい適用を示したものではない』というのは、**契約神学が恵みの契約のみに立っており、ディスパenseーションに該当するようなものは恵みの契約の新しい展開であり適用であるというが、そうではない**ことを明確にするために書いている。  
※漸進的ディスパenseーションについては、後ほど解説
- ディスパenseーションの定義が聖書塾等で教えられているものと表現が違うが、これは限られた言葉でシンプルに分かりやすくするためである。

45

## 【5】ディスパenseーション



- ディスパenseーションの基という言葉は、各ディスパenseーションの理論を支えているのは以下の3点である、という意味である。各ディスパenseーションがなぜディスパenseーションとして成り立つかという、聖書を字義通りに解釈し、イスラエルと教会を一貫して区別し、**神の栄光**が最終ゴールであるという認識があるからである。
- ディスパenseーションの移行というのは、歴史的事実であると同時に、今も起こっていることである。今、私たちは御国の時代に行こうとしている。よって、歴史的事実認識として信じているだけではない。

46

## 【5】ディスパenseーション



### 神の啓示のゴール（聖書が書かれた目的）

- (1) 神の啓示のゴールは、「人類の救い」ではない。
  - ①「人類の救い」は、目的の一つである。
- (2) 神の啓示のゴールは、「**神の栄光**」である。
  - ① 神の約束（計画）は必ず成就する。
    - \* イスラエルに対する計画
    - \* 教会に対する計画 (エペソ3:6)
    - \* **天使たちに対する計画** (エペソ3:10、第1ペテロ1:12、第1コリント6:3)
  - ② 神はいかにして計画を成就されるか。
    - \* これについて学ぶことは、神の偉大さを認める作業である。
  - ③ 「神の栄光」とは、神のご性質と関係したものである。

47

## 【5】ディスパenseーション



### 神の栄光

神の栄光（Glory of God）とは、**神の本質、偉大さ、聖さ、義、愛、力など、神のすべての属性が現れること**を指します。神の栄光は、聖書全体を貫くテーマであり、被造物を通じて、また歴史の中で神の働きを通じて顕現されます。

- (1) 神の栄光の現れ
  - 創造を通して (詩篇19:1) : 「天は神の栄光を語る」
  - 歴史を通して (イザヤ6:3) : 「その栄光は全地に満ちている」
  - イエス・キリストを通して (ヨハネ1:14) : 「ことばは人となり…その栄光を見た」
  - 終末の成就 (黙示録21:23) : 「神の栄光が都を照らす」
- (2) 人間の使命
  - 1コリント10:31「何をするにも、神の栄光を現すためにしなさい。」

神の栄光を認め、たたえ、日々の生き方を通じて示すことが、**信仰者の使命**です48

## 【5】ディスペンセーション

### (参考) 漸進的ディスペンセーション

「ディスペンセーションナリズム Q & A」(中川健一) p184~

(2) 上記3名の神学者たちが漸進的ディスペンセーションナリズムを創案した理由は、それまでに存在した契約神学とディスペンセーションナリズムの溝を埋めるためです(その溝は、今も存在しています)。つまり彼らは、議論が噛み合わない**契約神学とディスペンセーションナリズムの仲介者的役割**を果たそうとしたのです。しかし、その試みは成功したとは言えません。契約神学の側からは、漸進的ディスペンセーションナリズムは歓迎されています。なぜなら、伝統的ディスペンセーションナリズムを離れ、契約神学に近づいたからです。しかし、ディスペンセーションナリズムの側からは歓迎されていません。そもそも、漸進的ディスペンセーションナリズムの枠組み自体が、伝統的な意味でのディスペンセーションナリズムの範疇に入っているかどうか疑わしいからです。」

49

## 【5】ディスペンセーション

p187 同著

(2) 次に、補完的解釈がもたらした比喩的解釈の具体例をいくつか挙げてみます。

① **漸進的ディスペンセーションナリズムは、聖書本文には客観的な意味が一つしかないという事実(意味の単一性)を否定します。**そして、聖書本文には複数の意味があり、解釈者は、著者が表現しようとした意味よりも深い意味を探るべきだと主張します。  
※エデン契約? アダム契約?

② 漸進的ディスペンセーションナリズムは、アブラハム契約、ダビデ契約・新しい契約が、民族としてのイスラエルの上に成就する(千年王国において)と信じています。と同時に、これらの契約は、教会の上に今すでに漸進的に成就しつつあるとも主張します。これが、「すでに/いまだに」(Already/not yet)という考え方です。蛇足ですが、**土地の契約の成就に関しては、彼らは沈黙しています。恐らく、説明法が見つからないからでしょう。** → **モーセ契約の更新でもない**

50

## 【6】天使について

### (1) 創造

神は、**天使、セラフィム、ケルビム**として知られる無数の罪のない存在を**創造**された。

#### 【注解】

➤セラフィムもケルビムも広い意味では天使であるが、聖書では、セラフィムとケルビムと他の天使たちを区別している。

51

## 【6】天使について

### 【1】創造の事実

#### (1) 天使は被造物である

詩篇148 :1-5

- 1 ハレルヤ。天において主をほめたたえよ。いと高き所で 主をほめたたえよ。
- 2 主をほめたたえよ すべての御使いよ。主をほめたたえよ 主の万軍よ。
- 3 日よ 月よ 主をほめたたえよ。主をほめたたえよ すべての輝く星よ。
- 4 天の天よ 主をほめたたえよ。天の上にある水よ。
- 5 主の御名をほめたたえよ。主が命じて それらは創造されたのだ。

52

## 【6】天使について



### (2) 天使はキリストによって創造された

コロサイ1:15-17

15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。

16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。

17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。

53

## 【6】天使について



### 【2】創造の時期

(1) 地が創造された時には、天使たちはすでに存在していた。

ヨブ38:4-7

4 わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。分かっているなら、告げてみよ。

5 あなたは知っているはずだ。だれがその大きさを定め、だれがその上に測り縄を張ったかを。

6 その台座は何の上にはめ込まれたのか。あるいは、その要の石はだれが据えたのか。

7 明けの星々がともに喜び歌い、神の子たちがみな喜び叫んだときに。

54

## 【6】天使について



### 【3】天使の数

黙示録5:11

また私は見た。そして御座と生き物と長老たちの周りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。

マタイ18:1-3,10

1 そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「天の御国では、いったいだれが一番偉いのですか。」

2 イエスは一人の子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、

3 こう言われた。「まことに、あなたがたに言います。向きを変えて子どもたちのようにならなければ、決して天の御国に入れません。

10 あなたがたは、この小さい者たちの一人を軽んじたりしないように気をつけなさい。あなたがたに言いますが、天にいる、彼らの御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。

55

## 【6】天使について



### 【4】天使の階級

(1) 一般の天使

① **ミカエル**（誰が神のようであろうか／天使長）  
※サタンと戦う 大患難時代にイスラエルを守る

② **ガブリエル**（神から出た力ある者） ※神からの啓示を人間に伝える役割

③ それ以外の無名の天使

黙示録12:3-9

3 また、別のしるしが天に現れた。見よ、炎のように赤い大きな竜。それは、七つの頭と十本の角を持ち、その頭に七つの王冠をかぶっていた。

4 その尾は天の星の三分の一を引き寄せて、それらを地に投げ落とした。また竜は、子を産もうとしている女の前に立ち、産んだら、その子を食べてしまおうとしていた。

56

## 【6】天使について



- 5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。その子は神のみもとに、その御座に引き上げられた。
- 6 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。
- 7 さて、天に戦いが起こって、**ミカエル**とその御使いたちは竜と戦った。竜とその使いたちも戦ったが、
- 8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。
- 9 こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。

57

## 【6】天使について



### ダニエル12:1

その時、あなたの国の人々を守る大いなる君 ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。

58

## 【6】天使について



### (2) セラフイム

セラフイム (Seraphim/セラフの複数形) は、天使の中でも最上位の階級に属する存在で、特に神への礼拝や賛美を司る役割を持っています。ヘブライ語の「שרָפִּים (サーラーフ)」が語源で、「燃えるもの」「燃え上がる者」という意味。

#### イザヤ6:1-3

- 1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高く上げられた御座に着いておられる主を見た。その裾は神殿に満ち、
- 2 **セラフイム**がその上の方に立っていた。彼らにはそれぞれ**六つの翼**があり、二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでいて、
- 3 互いにこう呼び交わしていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満ちる。」

59

## 【6】天使について



### (3) ケルビム

最高位の天使たち。「護衛」「覆う」という意味 ケルブの複数形

#### ケルビムの3分類/エゼキエル書

- \* 一つの顔と2つの翼を持ったもの
- \* 2つの顔と2つの翼を持ったもの
- \* 4つの顔と4つの翼を持ったもの  
顔が4つ (人・獅子・牛・鷲)  
足はまっすぐ、蹄 (ひづめ) のような足  
翼は4枚、翼の下に人間の手  
炎のような存在、稲妻のように動く

サタンは、この3つのいずれかである

60

## 【6】天使について



エゼキエル28:12-17

- 12 「人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう言われる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。
- 13 あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石に取り囲まれていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、縞めのう、碧玉、サファイア、トルコ石、エメラルド。あなたのタンバリンと笛は金で作られ、これらはあなたが創造された日に整えられた。
- 14 わたしは、油注がれた守護者**ケルビム**として あなたを任命した。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いていた。
- 15 あなたの行いは、あなたが創造された日から、あなたに不正が見出されるまでは、完全だった。

61

## 【6】天使について



- 16 あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、こうしてあなたは罪ある者となった。そこで、わたしはあなたを汚れたものとして 神の山から追い出した。守護者**ケルビム**よ。わたしは火の石の間から あなたを消え失せさせた。
- 17 あなたの心は自分の美しさに高ぶり、まばゆい輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に放り出し、王たちの前で見せ物とした。

62

## 【6】天使について



### (2) サタン

- ①これらの創造された存在の一人である「**明けの明星、暁の子**」(イザ14:12)は、最も高い位階にありながら、傲慢によって罪を犯し、敵対者サタンとなった。

イザヤ14:12

明けの明星、暁の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。

「明けの明星」がラテン語で「**ルシファー**」と訳され、そこから悪魔の名前として定着した。

63

## 【6】天使について



- ②彼は、人格を有する実在の存在であり、この世に罪をもたらした者であり、今も**この世の君、この世の神**として活動している。
- ③彼は、神と神の民の大敵であり、人類を欺く者である。
- ④彼は、最初の人類をそそのかし、彼らを墮落させた。
- ⑤彼は、十字架によって裁かれたが、刑罰は「火の池」で執行される。

64

## 【6】 天使について

### 【注解】

- ①でサタンのことを「一人」と呼んでいるが、これはサタンが人格を持った存在だからである。
- ⑤十字架によって、サタンの悪巧みが破壊されたので、キリストの十字架というのはサタンが裁かれた出来事である。
- 今でもサタンが暗躍しているのは、裁きの執行が将来に先延ばしになっているからであり、神が人類を試すためにサタンを泳がせている。

65

## 【6】 天使について

### (3) 悪霊ども

- ①多くの天使たちがサタンに従って墮落し、悪霊となった。その一部は、今もサタンの邪悪な目的を達成するために、その手先として活動している。
- ②それ以外の悪霊どもは、地獄（タータラス）に閉じ込められている。

「神は、罪を犯した御使いたちを放置せず、地獄に投げ入れ、暗闇の縄目につないで、さばきの日まで閉じ込められました」（2ペテ2：4）

66

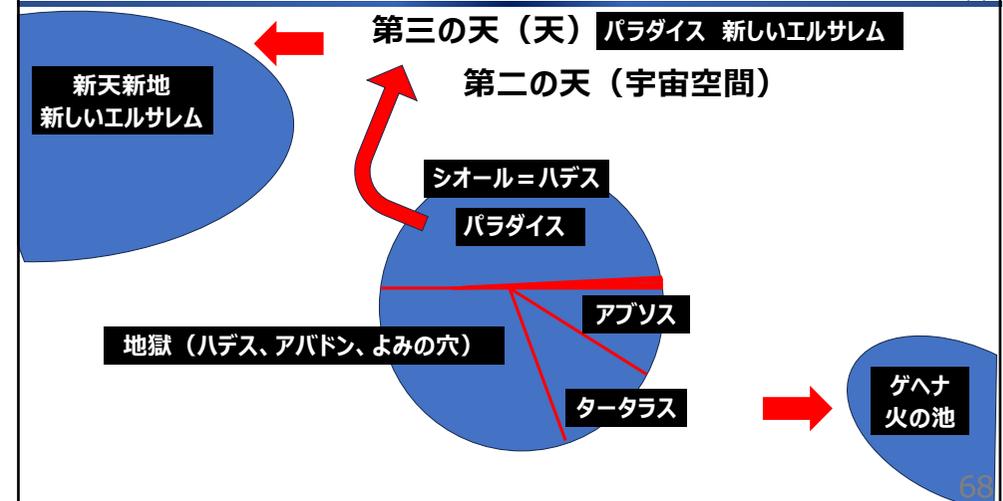
## 【6】 天使について

### 【注解】

- 一つの同じ性質のものを表現する時に、特に文学的なバラエティを考えると、異なった用語を使う場合がある。元は天使だったけれど墮落した、ということを強調したい場合に、悪霊と言っているものを墮天使と言う場合がある。**墮落した天使は、全て悪霊である。それを墮天使と呼ぶことも可能である。**
- ノアの時代に人間の女性と雑婚した悪霊どもは、タータラスに閉じ込められている。
- アブソスに閉じ込められている悪霊どもがいるが、それは患難期の中でもう一度出てくる。
- 悪霊を区分すると、現在活動中のものと、アブソスに閉じ込められているものと、タータラスに閉じ込められているものと、3区分される。

67

## 【6】 天使について



68

## 【6】 天使について



### (4) 聖なる天使たち

- ①多くの天使たちは、創造時に与えられた聖なる状態を保持した。
- ②彼らは今、神の目的を達成するために、神に仕える霊として奉仕している。特に、**救いを受け継ぐ者たちのために奉仕している。**

#### 【注解】

- ②「救いを受け継ぐ者たち」とあるが、「救いを受けた者たち」とすると、天使が未信者のために奉仕していないことになってしまう。**天使は、神がこれから救おうとしている者たちのためにも奉仕している。**
- 「救いを受け継ぐ者たち」という場合は、英語的にはinheritである。この言葉には、神から遺産として救いを頂くというニュアンスがある。

69

## 【7】 人間について



- ①人間は、「神のかたち」に創造された。
- ②人間は、罪を犯して墮落し、霊的ないのちを失った。
- ③人間は、数々の違反と罪の中で死んでおり、**全的に墮落している。この墮落した性質は、イエス・キリストを除くアダムの子孫に受け継がれている。**
- ④人間は、神の恵みなしには変わることができない。

#### 【注解】

- 「全的に墮落している」とは、どの点においても神の基準に達しないという意味である。

70

## 【7】 人間について



### 創1：27

神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

71

## 【7】 人間について



### ローマ5：12～21

- 12 こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に
- 13 実に、律法が与えられる以前にも、罪は世にあったのですが、律法がなければ罪は罪として認められないのです。
- 14 けれども死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々さえも、支配しました。アダムは来たるべき方のひな型です。
- 15 しかし、恵みの賜物は違反の場合と違います。もし一人の違反によって多くの人が死んだのなら、神の恵みと、一人の人イエス・キリストの恵みによる賜物は、なおいっそう、多くの人に満ちあふれるのです。
- 16 また賜物は、一人の人が罪を犯した結果とは違います。さばきの場合、一つの違反から不義に定められましたが、恵みの場合は、多くの違反が義と認められるからです。

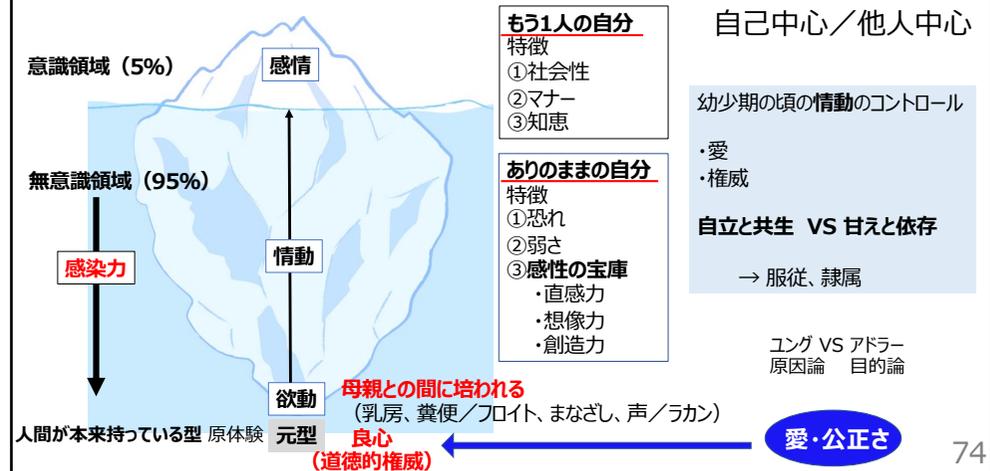
72

## 【7】人間について

- 17 もし一人の違反により、一人によって死が支配するようになったのなら、なおさらのこと、恵みと義の賜物をあふれるばかり受けている人たちは、一人のイエス・キリストにより、いのちによって支配されるようになります。
- 18 こういうわけで、ちょうど一人の違反によってすべての人が不義に定められたのと同様に、一人の義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられます。
- 19 すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。
- 20 律法が入って来たのは、違反が増し加わるためでした。しかし、罪の増し加わる場所に、恵みも満ちあふれました。
- 21 それは、罪が死によって支配したように、恵みもまた義によって支配して、私たちの主イエス・キリストにより永遠のいのちに導くためなのです。

73

## 【7】人間について



## 【7】人間について

### ➤母親との関係

- タイプ1...一生懸命がんばって、いい子でいるために完璧を目指す。
- タイプ2...にっこりとして優しいことで受け入れてもらおうとする。
- タイプ3...効率よく達成、成功し、認めてもらおうとする。
- タイプ4...感受性の豊かさを武器に他の子供たちとの感じ方や美意識の違いを訴え、特別な存在と認識してもらおうとする。
- タイプ5...情報や知識を収集し、自らの頭の良さや知恵の豊富さを認めてもらおうとする。
- タイプ6...お母さんの言いつけをきちんと守り、懸命に誠実さを示す。
- タイプ7...楽天主としての明るさで歓心を買おうとする。
- タイプ8...正義を貫く強さを評価してもらおうとする。
- タイプ9...穏やかな雰囲気をつくり、お母さんとの間に好ましい調和を築こうとする。

75

## 【8】救いについて

### (1) 救いの方法

- ① 救いは、神の一方的な恵みにより与えられるものであり、人間の善行や宗教的儀式によって得られるものではない。
- ② 救いは、個人的な信仰によって受け取る神からの贈り物である。
- ③ 信じた瞬間に、キリストの義が転嫁され、その人は、神の目に義とされる。
- ④ 救われる者たちは、永遠の過去において無条件に救いに選ばれており、聖霊によって、その選びに抵抗できないような形で召されている。

76

## 【8】 救いについて



### 【注解】

➤ 私たちは、ディスペンセーションリストであると同時に、**マイルドカルビニスト**である。よって、神の恵みというものについて、神が自由に選んで恵みを与えてくださると思われている。また、永遠の過去において無条件に救いに選ばれている、聖霊が働かれたときにその選びに抵抗できないような形で召されている、というのもカルビニ的な考え方であり、聖書はそのように主張しているので、このような書き方をしている。

77

## 【8】 救いについて



### 【カルビニズム（カルヴァン主義）】

- ① 神の主権による救いの予定（選び）を強調するキリスト教神学の立場。
- ② ダブル・プレディスティネーション（二重予定説）  
神が救われる人と滅びる人の両方を、主権的にあらかじめ定めたとする教え。
- ③ シングル・プレディスティネーション（単一予定説）  
神は救われる人のみをあらかじめ選び、滅びについては積極的に定めていないとする立場。
- ④ マイルドカルビニスト  
カルビニズムの中心教理（救いの確実性、神の主権）を受け入れつつ、極端な二重予定説や人間の責任否定を避ける柔軟な立場。

78

## 【8】 救いについて



### (2) 救いの範囲

- ① 信じた時点で、罪人は神に受け入れられ、キリストと完全に一体とされる。それゆえ、キリストが父から愛され受け入れられているように、その人も父から愛され受け入れられている。
- ② 救われた人は、神の恵みのすべての富の受け取り手であり、あらゆる霊的祝福を所有している。それゆえ、いわゆる「第二の祝福」や「第二の恩寵」を求める必要はない。

79

## 【8】 救いについて



### 【注解】

- 第二の祝福、第二の恩寵という言葉は、きよめ派の中で教えられている「瞬間的きよめ」のことを言っている。ペンテコステ派では、「第二の祝福」という言葉で「異言の恵み」「聖霊のバプテスマ」のことを言う場合もある。私たちは義認の後、プロセスとして聖化が始まるという言い方をしているが、きよめ派では、「あの瞬間に清められた」という体験を求めなければならないという言い方をしている。
- ②では、第二の祝福や第二の恩寵という、ペンテコステ派の言う聖霊のバプテスマ、あるいは、きよめ派の言うきよめ体験は必要ないということを言っている。救いの中にそれらの祝福は含まれている。

80

## 【8】 救いについて



### 【「第二の祝福」「第二の恩寵」】

- ① 「第二の祝福」「第二の恩寵」とは、きよめ派が教える「瞬間的きよめ」や、ペンテコステ派が言う「聖霊のバプテスマ（異言の恵み）」のことを指す。
- ② きよめ派では、「ある瞬間に清められる体験」を強調する。
- ③ ペンテコステ派では、「第二の祝福」を聖霊のバプテスマや異言の賜物と結びつける。

私たちの立場は、「**救い**」に**すべての霊的祝福が含まれている**ため、追加的な特別体験（第二の祝福やきよめ体験）は必要ないとする。  
救いの後は、義認から聖化へのプロセスが続く、と理解している。

81

## 【8】 救いについて



### （3）永遠の保証

- ① **すべての真の信者は、永遠に救いを失うことはない。永遠のいのちは、神からの贈り物だからである。**
- ② **救われたすべての人は、キリストを信じた瞬間から、救いの保証が与えられている。**
- ③ **この保証は、自らの行いに基づくものではなく、聖書の証言と聖霊の証しによるものである。**

#### 【注解】

➤「**救いの確信**」と「**救いの保証**」の違いについて。確信という言葉は主観的なものであり、保証という言葉は客観的なものである。確信があっても救われていない人もいれば、確信がなくても救われている人もいます。よって、②は「**救いの確信**」よりも「**救いの保証**」の方が良い。

82

## 【8】 救いについて



### （4）聖化

- ① 聖化には、**予備的聖化、位置的聖化、漸進的聖化の3つの種類がある。**
- ② **予備的聖化とは、信者は救いの前から聖化されるように選ばれていることである（2テサ2：13）。**  
**13 しかし、主に愛されている兄弟たち。私たちはあなたがたのことに、いつも神に感謝しなければなりません。神が、御霊による聖別と、真理に対する信仰によって、あなたがたを初穂として救いに選ばれたからです。**
- ③ **位置的聖化とは、信者は、キリストのうちにあることによって、神の目からはすでに完成された者と見なされているということである。**
- ④ **漸進的聖化とは、信者は罪の性質を宿しながらも、地上生涯において恵みの中で成長し続け、ますます神の御子の姿に似たものとなっていくということである。聖化の完成は、栄化である。**

83

## 【8】 救いについて



#### 【注解】

- ②予備的聖化には、信者は救われる前から選ばれており、神はその人が福音を信じて救われるように予定されていた、と言う義認に関する意味もあるが、ここでは聖化について論じている。つまり、予備的聖化には、救いの選びと、救われた者が聖化されていくという選びの二つがある。
- 漸進的聖化だけ強調されることが多いが、予備的聖化と位置的聖化もあることを覚えることで、安心して信仰生活を送ることができる。

84

## 【8】救いについて



### 【1】聖霊の働きがなければ、クリスチャン生活は不可能である

私たちがイエス・キリストを信じることも、**救いを受け取ることも**、信仰者として歩み続けることも、人間の力だけでは絶対にできないということを意味します。

#### 1. 救いも聖霊の働きによる

まず、私たちがイエス様を「救い主」と信じることも、聖霊の助けによるものです。

#### 第1コリント12:3

ですから、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも「イエスは、のろわれよ」と言うことはなく、また、聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。

85

## 【8】救いについて



### 2. 霊的成長も聖霊の助けによる

クリスチャンとして成長する（罪と戦い、神の御心に従って生きる）ことも、聖霊の内側からの導きと力によって初めて可能になります。

#### ガラテヤ5:16

私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。

86

## 【8】救いについて



### 3. 有効な伝道・奉仕も聖霊の力による

また、神様が願われるように人を愛し、証しし、奉仕することも、聖霊の力によってこそ可能です。

イエス様ご自身も、弟子たちにこう約束されました。

#### 使徒1:8

しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。

87

## 【8】救いについて



### 【2】聖霊の内住の意味

聖霊の内住とは、イエス・キリストを信じるすべての人の心の中に、聖霊ご自身が住んでくださることを意味します。信じた者のうちに、聖霊が永遠にとどまり、導き・助け・力を与え、神の子として歩めるようにしてくださいます。

#### 第1コリント6:19

あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。

88

## 【8】救いについて



ヨハネ14:16-17

- 16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。
- 17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。

89

## 【9】イスラエルについて



- ①神は、アブラハム、イサク、ヤコブの肉体的な子孫である民を、御自身の計画を成就するための器として召された。イスラエルは選びの民である。
- ②イスラエルは、「主（ヤハウェ）の妻」と呼ばれているが、過去に犯した不貞の罪のゆえに、現在は離縁された状態になっている。しかし、将来は再び夫ヤハウェと結ばれることになる。
- ③神は、この選びの民と4つの無条件契約を結ばれたが、これらはまだ完全には成就していない。

90

## 【9】イスラエルについて



- ④神は、イスラエルに対するすべての約束を、文字どおり成就される。イスラエルに対する警告や裁きが、文字どおり成就したのと同じである。
- ⑤イスラエルの不信仰の歴史の中にあっても、常に恵みの選びによる真の信仰者が残されてきた。彼らは、「イスラエルの残れる者」（レムナント）である。
- ⑥イスラエルの民族的な新生が実現するとき、無条件契約の条項（子孫、土地、祝福の約束）は、すべて成就する。

91

## 【9】イスラエルについて



### 【注解】

- 神がイスラエルの民と結んだ4つの無条件契約は、アブラハム契約、土地の契約、ダビデ契約、新しい契約であるが、これらの最終的な成就是千年王国で達成される。
- 無条件契約とは、神と人との間の「片務契約」であり、神の恵みによって祝福が保障されるので、人間の側に契約条項に対する不従順があっても、その契約が破棄されることはない。
- 無条件と言っても、それは何をしても許されると言う意味ではなく、もしそれらの条項に違反した場合は、神がご自身の民を訓練するために、その不従順を裁かれる。

92

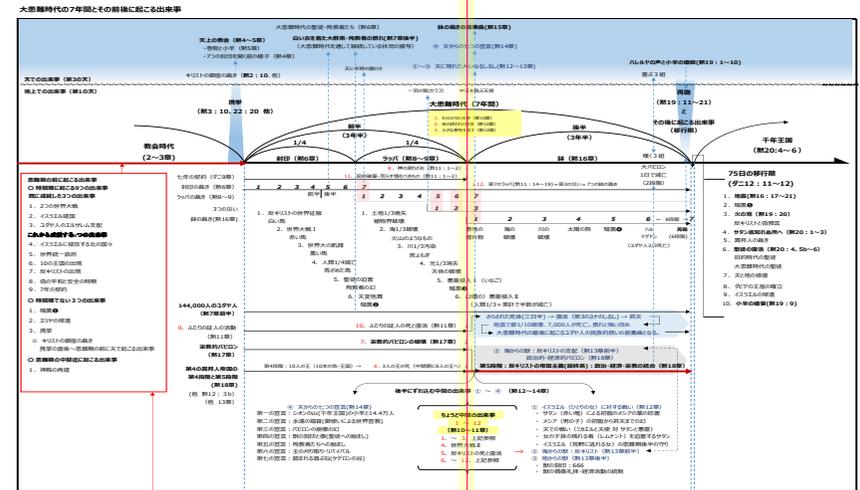
## 【9】イスラエルについて

➤②の「将来」とは、大患難時代の最後、イスラエルの民が民族的に回心することである。

➤⑥イスラエルの民族的な回心があり、それと同時に新生が実現する。

93

## 【9】イスラエルについて



94

## 【9】イスラエルについて

- ①エゼキエル戦争
- ②世界統一政府の成立（政治的）
- ③十の王国に分割・反キリストの出現
- ④イスラエルと反キリストの契約（患難期開始）～患難期前半のさばき
- ⑤反キリストが十の王国を完全掌握（先の3つを滅ぼし、7つを掌握する）
- ⑥反キリストの死と復活、二人の証人の殺害  
獣の王国の完成～患難期後半のさばき
- ⑦ハルマゲドン
- ⑧千年王国

95

## 【9】イスラエルについて

【山へ逃げなさい】

### 第一次ユダヤ戦争（66年～73年）

において、67年ローマの属州シリアの総督ガルスがエルサレムを包囲した時に、真の信者は、ペラの山に逃げました。

※第2次ユダヤ戦争（バル・コクバの乱）  
西暦132年～135年



96

## 【9】イスラエルについて



### ルカ21:20-21

20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。

21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都に入ってははいけません。

### ルカ21:24

24 人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。

### マタイ24:15-16

15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべきもの』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

16 そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。

97

## 【10】教会について



### (1) 有機体

① 教会は、キリストのからだであり、花嫁である。

② 教会は、ペンテコステ（聖霊降臨）から携挙までのすべてのユダヤ人信者と異邦人信者から構成されている。

③ 信者は、聖霊によるバプテスマによって、教会の一員となる。

④ 教会とイスラエルは、区別される。教会は、神がイスラエルと結ばれた諸契約の霊的祝福に与るが、イスラエルに取って代わるわけではない。

### 【注解】

➤ ここでの教会は、普遍的教会のことである。本来的には、教会と言えば、普遍的教会のことを指すことが、地域教会のことを指すよりも優先される。

98

## 【10】教会について



### (2) 聖礼典

① 聖礼典とは、キリストによって命じられ、「使徒の働き」の中で実践され、書簡で詳述されている式典である。

② 聖礼典は、2つしか存在しない。信者だけが受ける浸礼によるバプテスマと、聖餐式である。

### 【注解】

➤ ②の「信者だけが受ける」という言葉は、浸礼によるバプテスマだけでなく、聖餐式にもかかっている。よって、信者だけが受ける浸礼によるバプテスマと、信者だけが与る聖餐式である、ということをここで言っている。

99

## 【10】教会について



### ■ 男性執事による司式について

#### 初代教会の実例

「そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。」(使徒の働き2章46節-47節a)

この記述は、信徒たちが家庭単位でパンを裂き、交わりを持っていた様子を示しています。しかし、これをもって「役職や指導者を欠いた無秩序な聖餐」であったと理解するべきではありません。初代教会では、使徒たちの教えを受け(使徒2:42)、その指導に基づいて信仰生活を営んでいました。さらに次の聖句が示すように、教会にはすでに使徒と長老による巡回的な監督と指導の秩序が存在していました。

「さて、彼らは町々を巡回して、エルサレムの使徒たちと長老たちが決めた規定を守らせようと、人々にそれを伝えた。」(使徒の働き16章4節)

このことから、各地の家庭集會や教会には、男性の家父長的リーダーが立てられ、使徒・長老の教えと監督のもとで聖餐が行われていたと考えるのが妥当です。

100

## 【10】教会について



### (3) 信者の責務

- ①すべての信者には、聖礼典に参加するために集う、教える賜物のある人たちから聖書の教えを受ける、お互いを建て上げる、神を礼拝する、などの責務がある。
- ②信者の群は、権威ある指導者たちのもとで、地域教会として組織化されるべきである。
- ③信者は、内住する聖霊の力によって聖なる生活を送るように召されている。また、この世、肉、悪魔に対する霊的戦いを戦い、地域教会の建て上げのために、霊的賜物を用いるように命じられている。

101

## 【10】教会について



### 【注解】

- (1)で教会という言葉が普遍的教会であるということを確認した。そこに属している人は、**地域教会として組織化されていくべきである、という論理展開**になっている。
  - ・その場合に、信者でない人も混じってくる危険性がある。よって、普遍的教会と地域教会は、対立概念としてあるわけではない。
- 「お互いを建て上げる」とは、一人ひとりが霊的賜物を用いて、建徳的にお互いの信仰を建て上げていくということである。そこには、人格的な成長という要素、肉体的や経済的に困っている人を助けることも含まれる。
  - ・「お互いを建て上げる」という言葉は、英語では、edify each otherというが、その時にspirituallyとかtotallyとかphysicallyとかは出てこない。それはそれら全部を包括しているからである。

102

## 【10】教会について



- 「群」という言葉の類語に、「集まり」という言葉がある。集まりという言葉は、そこに集まっている人を指しているのに対し、群という言葉は、そこに集まっていなくてもそこに属している人全体を指す。

103

## 【10】教会について



### (4) 地域教会における女性の役割

- ①女性が男性に聖書を教えることは、禁じられている（1テモ2：11～14）。
- ②女性が御霊の賜物を行使することは、禁じられていない。
- ③互いに仕え合い、御霊の実をつけることは、女性にも期待されている。
- ④大宣教命令は、女性にも向けられたものである。

104

## 【10】教会について

### 【注解】

- 女性の教職を認めないということは、①で明らかであるので、あえて書いていない。
- 女性が男性に聖書を教えることは、教会であっても、私的な場であっても禁じられている。
  - ・大宣教命令とは福音を伝えることであり、女性が福音を伝えることは禁じられていない。つまり、**大宣教命令で福音を伝えることと、聖書を教えることは、分けて考える**。福音の伝達は、グッドニュースの伝達であって、御言葉の権威を女性が行使しているということとは違う。なお、プリスキラとアキラが、私的にアポロを招いて教えた箇所は、聖書を教えるというより、まだ厳密には救われていなかったアポロに対して大宣教命令を実行していると考えられる。

105

## 【10】教会について

- 女性が男性に聖書以外のテーマについて教えることは許されている。
- 女性が、子どもの男の子に聖書を教えることは許されている。

106

## 【10】教会について

### ■ 女性教師問題の背後にある霊的視点（ハンナ会の学びより）

- **問題の本質**  
女性教師問題は、女性の能力や霊性の優劣を論じるものではなく、神が定められた秩序と権威構造をめぐる霊的戦いの一側面である。
- **サタンの基本的戦略**  
サタンは神の権威を正面から否定するのではなく、神の秩序の境界線を曖昧にすることによって、内側から崩そうとする。
- **創世記3章に見られる原型**  
エデンの園において、神の言葉は歪められ、責任と順序の流れが崩されることで、人類は墮落へと導かれた。

107

## 【10】教会について

- **女性が用いられる理由**  
問題は女性そのものではなく、女性に関係性に強い影響力を持つ存在であるがゆえに、権威構造を揺るがすための入口として用いられてきた点にある。
- **教会史における繰り返し**  
この問題は多くの場合、善意や配慮、時代への適応という名目から始まり、結果として聖書の明確な線引きが解釈によって相対化されてきた。
- **教会に問われている点**  
女性教師問題は個々の奉仕や賜物を否定する議論ではなく、教会が最終的な権威を文化や時代精神に置くのか、聖書に置くのかが問われている。
- **バランスある理解**  
女性の奉仕や賜物の行使、大宣教命令への参与は聖書的に肯定されている一方で、神が定めた秩序を越えさせようとする霊的圧力の存在を認識し、みことばに基づいた慎重な線引きが必要である。

108



(5) 結婚

- ① 結婚は、一人の男性と一人の女性の間の恒久的、排他的、包括的、かつ「一つの肉」（創2:23）としての結合である。
- ② 結婚は、本質的には子孫を残し、社会の最小構成単位である家族を維持するために造られた神聖な制度である（創1：27～28、創2：18～24、マタ19：4～9、マコ10：5～9、エペ5：31～33）。
- ③ 婚外の性的行為は、罪深いものとして禁止されている。
- ④ 信者は、婚外のすべての性的行為（同性愛行為を含む）を避けなければならない（出20：14、レビ18：7～23、レビ20：10～21、申5：18、マタ15：19、マタ5：27～28、マタ15：19、ロマ1：26～27、1コリ6：9～13、1テサ4：3、ヘブ13：4、ガラ5：19、エペ4：17～19、コロ3：5）。



【注解】

- 恒久的とは、地上生涯が続く間、死が二人を分かたずずっと続くという意味であり、永遠とは違う。
- 包括的とは、肉体も人格も全て含めて、という意味である。



■ 結婚と生涯独身について

➤ 結婚の位置づけ

結婚は、神によって定められた神聖な制度であり、人類に与えられた重要な祝福である。

➤ 生涯独身の肯定

聖書は、結婚と同様に、独身もまた神から与えられる賜物であることを示している。

第1コリント7章7節-8節

7 私の願うところは、すべての人が私のおようであることです。しかし、ひとりひとり神から与えられたそれぞれの賜物を持っているので、人それぞれに行き方があります。

8 次に、結婚していない男とやもめの女に言いますが、私のおようにしていただけるなら、それがよいのです。



➤ 価値の優劣を否定

結婚と独身は、靈的価値や成熟度の優劣を決める基準ではない。

➤ 召しと従順の枠組み

いずれの状態においても、信者は置かれた状況の中で神に従い、主に仕えるよう召されている。

➤ 教会の姿勢

教会は、結婚を尊びつつ、生涯独身の男女を周縁化することなく、キリストのからだの一体として尊重すべきである。

## 【10】教会について



### (6) 大宣教命令

- ①教会（信者）には、あらゆる国の人々に福音を伝え、彼らを弟子とする責務が与えられている。
- ②その方法には、能動的なもの（福音宣教の働きを行う）と、受動的なもの（福音宣教の働きを行う者を支援する）がある。
- ③すべての国民を弟子化する順番は、「まずユダヤ人、次に異邦人」である。この順番は、能動的および受動的な福音宣教の両方に当てはまる。

113

## 【10】教会について



### ■大宣教命令と女性の関わり

- **原則の射程**  
能動的・受動的という区分は、性別による制限ではなく、すべての信者に共通する宣教参加のあり方を示している。
- **女性との関係**  
女性は、能動的な形で福音を伝えること、受動的な形で宣教を支援することそのいずれからも排除されていない。
- **教職との区別**  
大宣教命令における福音宣教への参与と、地域教会における教職的・権威的な「教える働き」は、聖書において区別されている。
- **結論的整理**  
女性は、大宣教命令において全面的な当事者であり、②に示されている能動的・受動的宣教の両面において等しく参与する責務と特権を与えられている。114

## 【11】携挙について



- ①キリストは、教会を御自身のもとに集めるために、空中に戻って来られる。
- ②携挙が起こると、教会時代の聖徒たちの中の死者は復活し、生者は栄化されて天に挙げられる。
- ③携挙は、差し迫った出来事であり、患難期前に起こるものである。
- ④携挙は、教会にとって祝福された希望である。

### 【注解】

- ①にある「教会」とは普遍的教会のことであり、普遍的教会には、死んでいる人も生きている人も含まれている。
- 復活は栄化の一部であり、復活を経ないで栄化される人もいる。

115

## 【11】携挙について



### ➤携挙の語源的根拠

ἀρπάζω (ハルパーズー)  
to snatch away, to take away

### 第一テサロニケ4:13-18

- 13 眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにはいてほしくありません。あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。
- 14 イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあって眠った人たちを、イエスとともに連れて来られるはずです。
- 15 私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。
- 16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、
- 17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて**引き上げられ**、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。
- 18 ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。

116

## 【11】携挙について



### ➤ 復活と変貌（栄化）の瞬間的出来事。

第一コリント15:51-52

51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。

52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

### ➤ 救出・待望の約束

第一テサロニケ1:10

10 御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、知らせているのです。この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、**やがて来る御怒り**から私たちを救い出してくださるイエスです。

117

## 【11】携挙について



第一テサロニケ5:9

9 神は、私たちが**御怒りを受けるようにではなく**、主イエス・キリストによる救いを得るように定めてくださったからです。

### ➤ 花婿と花嫁の比喻

ヨハネ14:1-3

- 1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。
- 2 わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。
- 3 わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

118

## 【11】携挙について



### ➤ 普遍的教会は大患難時代を通過しない

黙示録3:10

10 あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、**地上に住む者たちを試みるために全世界に来ようとしている試練の時には、わたしもあなたを守る。**

ὅτι τηρέω ὁ λόγος ὁ ὑπομονή ἐγώ, κἀγὼ σύ τηρέω ἐκ ὁ ὥρα  
because to keep, to observe the word the patient endurance, steadfastness I and I you' to keep, to protect from the hour  
ὁ πειρασμός ὁ μέλλω ἔρχομαι ἐπὶ ὁ οἰκουμένη ὅλος πειράζω ὁ  
the test, trial, temptation the to be about to to come on, upon the inhabited earth, world whole to test, to put to the test the  
κατοικέω ἐπὶ ὁ γῆ . ἵ ἔρχομαι ταχύς· κρατέω ὅς ἔχω, ἵνα μηδεὶς  
to live, to dwell on, upon the earth to come quickly to hold fast what to have in order that, so that no one

ὥρα (ホーラ) の基本的意味は  
「時」「時刻」「ある定まった期間」

πειρασμός (ペイラスモス)

θλίψις (スリプシス)

119

## 【11】携挙について



- ・黙示録3:10（最も直接的）
- ・テサロニケ書の「御怒りからの救出」
- ・黙示録の構造（教会の不在）
- ・ユダヤ婚礼の型
- ・ダニエル70週の区分

120



## 【TranslationとResurrection】

## 1. エノク (translation)の型

ヘブル11:5

信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。

## 2. エリア (translation)

Ⅱ列王2:11

こうして、彼らがなお進みながら話していると、なんと、一台の火の戦車と火の馬とが現れ、このふたりの間を分け隔て、エリアは、たつまきに乗って天へ上って行った。

121



## 3. マタイ27:52 の旧約の聖徒、地上の肉体をもったよみがえり

→再び死ぬ

マタ27:52-53

また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都に入って多くの人に現れた

## 4. イエス (resurrection)→復活の初穂、型

## 5. 新約の死んでいた聖徒 (resurrection)

Iテサ4:16

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、

122



## 6. 新約の生きている聖徒 (translation)※携挙

Iテサ4:17

次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

「バルバゾウ」という動詞は、携挙を示す動詞。

バルバゾー→ラプツロ(ラテン語)→ラップチャー(英語で携挙を意味する言葉)。

## 7. 二人の証人 (resurrection)

※大患難時代の中間

黙11:11-12

しかし、三日半の後、神から出たいのちの息が、彼らに入り、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々は非常に恐怖に襲われた。

そのときふたりは、天から大きな声がして、「ここに上れ」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。

123



## 8. 旧約の聖徒と大患難時代の聖徒 (resurrection)

※千年王国突入前

黙20:4-5

また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。

そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかつた。これが第一の復活である。

## 9. すべてのイエスを信じなかつた人々 (resurrection)

※千年王国の終わり

黙20:15

いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

124

## 【11】携挙について



### 【復活前の霊体で現れる例】

#### モーセとエリア【TranslationとResurrection】

##### 1. エノク (translation)の型

ヘブル11:5

信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。

##### 2. エリア (translation)

Ⅱ列王2:11

こうして、彼らがなお進みながら話していると、なんと、一台の火の戦車と火の馬とが現れ、このふたりの間を分け隔て、エリヤは、たつまきに乗って天へ上って行った。

125

## 【11】携挙について



### ■ 聖餐式の目的（携挙の学びの流れの中で）

#### 1. キリストを記念すること

- ・パンは主イエスのからだを象徴する
- ・ぶどう酒は新約のしるしである血を象徴する
- ・創造主であり、命の源であるお方を覚える

#### 2. キリストの再臨の保証の確認する

- ・一度限りで完全にささげられた贖いの死を記念する
- ・主が来られる時まで、それを告げ知らせる
- 私たちは御怒りに向かう民ではなく、主を迎える民であることを確認する。

#### 3. 交わりの恵みを味わう

- ・キリストとの霊的交わり
- ・同じ希望を持つ信者同士の交わり
- 携挙の希望は個人的な逃避ではなく、共同体的希望である。
- 聖餐は「花嫁が花婿を待つ交わり」の予告でもある。

126

## 【11】携挙について



### 第1コリント11:28

28 だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。

### マルコ14：22

22 さて、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」

### マルコ14：23-24

23 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、彼らにお与えになった。彼らはみなその杯から飲んだ。

24 イエスは彼らに言われた。「これは、多くの人のために流される、わたしの契約の血です。」

127

## 【12】患難期について



①携挙後に、7年間の患難期が地上を襲う。これは、ダニエルが預言した七十週の預言の成就である（ダニ9：27）。

②患難期は、全人類に対する審判の時である。

③患難期は、イスラエルの民族的な再生をもたらし、異邦人の時代を終わらせる。

### ダニエル9:27

彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。」

128

## 【12】患難期について



### 【注解】

- 患難期の目的は、第一義的にはイスラエルの不信仰に対する裁きであるが、同時に、罪深い異邦人に対する裁きにもなっている。だから全人類に対する審判の時である、と一言でカバーしているが、神の意図としては、次世代の民族的な再生が成就するということである。
- 審判という言葉には、「最終的な」というニュアンスがある。色々な裁きがあるが、審判というと、全人類に対する最終的な裁きが行われる時であるというニュアンスがある。
- 異邦人の時代とは、エルサレムが異邦人によって支配されている期間のことである。
  - ・それはバビロン捕囚（紀元前586年）から始まっており、キリストの再臨の時に終わる。

129

## 【12】患難期について



- ・一時的にイスラエルがエルサレムを回復したように見える時があったが、実態として神殿の丘をイスラエルが完全に支配しているわけではない。
- ③「再生」とは、イスラエルがヤハウェの妻として夫のもとに戻ることである。

130

## 【12】患難期について



### ■ 患難期の証言構造

#### ① 144,000人（世界的証言）患難期初期から全期間

黙示録7章／14章

出自：イスラエル12部族

特徴：神の印を受け守られる

活動：患難期を通して証言者として存在

本文は伝道活動を直接叙述しませんが、直後に大群衆の救いが描かれる

神の印＝使命的保護

という文脈から、

➡ 全世界に対する証言の担い手

131

## 【12】患難期について



#### ② 二人の証人（イスラエル中心の預言的証言）前半3年半

黙示録11章3節

活動期間：1,260日

活動地域：エルサレム

権威：奇跡的預言的権威

結末：殉教 → 復活 → 昇天

➡ イスラエルに対する直接的悔い改めの呼びかけ

#### ③ 殉教者の証言 患難期全体

黙示録6章、7章、13章、20章

132

## 【12】患難期について

### ④天からの宣言（終盤・大患難期）

黙示録14：6～13にかけて、

第一の御使い（14：6-7）

第二の御使い（14：8）

第三の御使い（14：9-11）

そして天からの声（14：12-13）

という流れで、福音の宣言／バビロン崩壊の宣言／獣礼拝への警告／聖徒への勧告／死者の幸いの宣言などが連続して語られます。

→ 天からの複数宣言

133

## 【13】再臨について

①患難期の終わりに、キリストは聖徒たちとともに、栄光と大いなる力をもって、天の雲に囲まれて、目に見える形で、肉体的に地上に再臨される。

②再臨は、敵からの救出を願うイスラエルの祈りに応えて成就する出来事である。

③再臨のキリストは、すべての生きている異邦人を裁き、千年王国に入る人と除外される人を区別される。

④再臨のキリストは、地上に御国（メシア的王国、千年王国）を設立される。

134

## 【13】再臨について

### ■再臨の流れ（第一の復活の完成）

空中再臨 ①教会時代の死者 ②教会時代の生者 第1テサロニケ4:16-17

（携挙）教会が天へ引き上げられる

↓

患難期（7年）

↓

地上再臨 ③大患難時代の殉教者 黙20:4 ④旧約時代の聖徒 ダニエル12:2 同時復活

↓

⑤患難期を生き残ったイスラエル（レムネント） ローマ11:26

⑥羊の異邦人 マタイ25:34

異邦人の裁き

↓

※移行期間 ダニエル12:11-12

千年王国

135

## 【13】再臨について

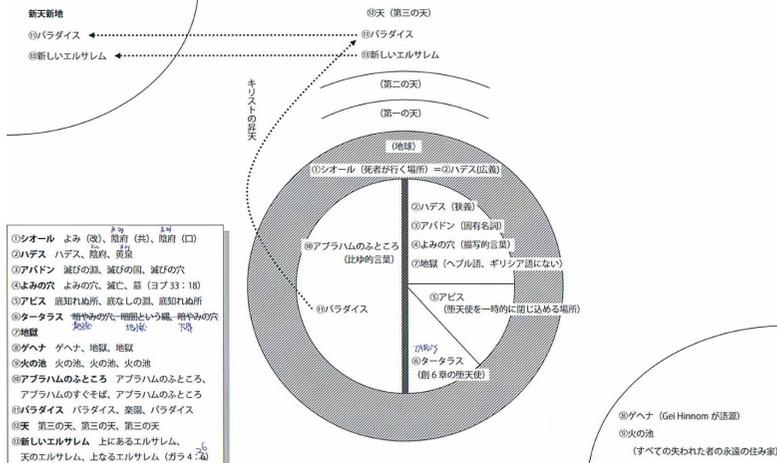
### 第1テサロニケ4:16-17

16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、  
17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

- ・ユダヤ人の婚礼
- ・過越の祭り

136

## 【13】再臨について



## 【13】再臨について

### ダニエル12:11-12

**11 常供のささげ物が取り払われ、荒らす忌まわしいものが据えられる時から、千二百九十日がある。**

**12 幸いなことよ。忍んで待ち、千三百三十五日に達する者は。**

1260日 (大患難の後半)

↓ (30日)

1290日

↓ (45日)

1335日

30日 + 45日の期間 (計75日)  
患難期から王国への移行期間

再臨

↓

サタン拘束 (黙20:1-3)

↓

患難期聖徒の復活 (黙20:4)

↓

旧約聖徒の復活 (ダニ12:2)

↓

羊と山羊の裁き (マタイ25:31-46)

↓

王国体制の準備

↓

千年王国開始

## 【13】再臨について

### ■ 去ったシャカイナグローリー

シャカイナグローリーは、モーセと共に幕屋におられ、その後、ソロモンの第1神殿に留まってくださった。

しかし、民の偶像礼拝により、民が悔い改めなかったために、やがてシャカイナグローリーは去って行かれる。

バビロンはソロモンの第1神殿を破壊するためにエルサレムを3度襲っている。

BC605年 ダニエル他、高官が捕囚

BC597年 エゼキエル他、中位が捕囚

BC586年 第一神殿が破壊 民が捕囚

その時、シャカイナグローリーは、至聖所から神殿の敷居に移動し、さらにオリブ山から去ってしまわれた。(ラビの注解書では3年半留まったとされている。)

シャカイナグローリーが神殿に留まっていれば、神殿が破壊されることは無いから、BC586の時点では、すでにシャカイナグローリー去って行かれたことになる。

## 【13】再臨について

### エゼキエル43:1-7

**1 彼は私を東向きの門に連れて行った。**

**2 すると見よ、イスラエルの神の栄光が東の方から現れた。その音は大水のどろきのように、地はその栄光で輝いた。**

**3 私が見た幻は、かつて主がこの町を滅ぼすために来たときに私が見た幻のようであり、またその幻は、かつて私がケバル川のほとりで見た幻のようでもあった。私はひれ伏した。**

**4 【主】の栄光が東向きの門を通過して神殿に入って来た。**

**5 霊が私を引き上げ、私を内庭に連れて行った。なんと、【主】の栄光が神殿に満ちていた。**

**6 私のそばに人が立っていたが、私は、神殿の中から声が私に語りかけるのを聞いた。**



7 その声は私に言われた。「人の子よ。ここはわたしの玉座のある場所、わたしの足の踏む場所、わたしが永遠にイスラエルの子らの中で住む場所である。イスラエルの家は、その民もその王たちも、もう二度と、淫行や高き所の王たちの死体で、わたしの聖なる名を汚さない。

ゼカリヤ14 : 4

4 その日、主の足はエルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山はその真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ、残りの半分は南へ移る。